

東芝君に感謝！

## そして今夏の節電・クールダウン対策

今月八日、当多摩市で日中三七度Cを記録し、高温が続いた。体温を上回る、つまり発熱状態になったわけだ。梅雨中なのに、真夏はこれからなのに！今後一層思い遣られる洗礼を浴びた。

夏になると決まって、その存在の有難さを嫌というほど痛感するものがある。これからはなおさらだ。もし、台風や地震で停電でもして使えなくなったらどうなるだろう？

勿論、冷蔵庫のことである。冷房も然り。

昨年からは、空いたペットボトルに水を八分目ほど入れて氷結し、冷房をオフにした寢床に置いて部屋の湿気を吸い取ってもらって、随分と寢心地の良いひと夏を過ごさせてもらい、電気代も大幅下げの結果に満足した。今年も早や、その恩恵を受けている。今後絶対欠かせないものの筆頭である。

三年ほど前に赴任した冷蔵庫・東芝君のお蔭で僕らの快適な暮らしは維持されている、といって過言でない。

特長は背高のつぼで、下部の冷凍庫がひと際広いことだ。そこに大量のボトルが収納でき、快眠を得たうえ、その凍結ボトル達で急な停電時にも凍結ボトルを上の冷蔵室に移し替えたりして対応できるのではないかと半ばずがるように期待している。

食料は、常温でも保存できるものを探し求めるように心掛けているが、冷凍保存食は勿論、食料以外の身体を冷やすネッククーラーなどにしても、冷蔵・冷凍庫が有ってのことだ。

実は、先代の東芝一世君にも大変お世話になった。

やや小振りであったが、何と！二十年も頑張ってくれた。

その東芝一世君について、余談を一つ

新しい冷蔵庫が届くことになった日、入れ替えに東芝君は引き取られて行くことになった。その一世君の体をポンポンと叩いて、これまでをねぎらって両手を合わせて感謝。業者を待った。

そして、いよいよの一世君と対面した業者が、スイッチを切られる前のうなり声を聴いて、結構な音を出してますね〜と感心したような呆れたような云いかたをしている。

確かに一世君、少し前からうなり声を発するようになった。さらに側面がかなりの熱を帯びて体調の思わしくない様子も気になった。そのうなりが終日ず〜と続くのだが、同居の僕らはそのうなりにすっかり慣れて仕舞い、それが時折りぴたっと止むことがあったりすると、びくっとするようになった。遂に息絶えたのか？ドアを開けてみる。灯りは点く。側面を触ってみる。熱が冷めているような気がする。気が気でないが、しばらく様子をみることに。すると何としかして、ぐう〜んとエンジンがかかったような音と共にうなり出し！ほっとする。この繰り返しで過〜して来ていた。

一般的に、彼ら冷蔵庫の寿命は九年というそうだが、それは業者が治療（修理）する備品の保有期間にあたるらしい。したがって、当たり外れは多少あっても大事にしていればその倍は生きるらしいが、九年を超えて壊れると、治療できないことになる。

なお寿命のサインは、先ず冷却能力の低下にはじまり、さらに進んで水漏れ。これらは、冷媒を循環させる心臓（コンプレッサー）の衰えやパッキンの劣化によるものという。

確かに我が家の一世君。冷却能力の低下は起きていた。夏場の製氷機が不能となって、氷が出来ない。するとコンビニなどで氷を買って補う。いわばユニケルなどの精力増強剤だ。すると、生き返ってゴトンゴトンと応えてくれる。パッキンは大丈夫であったから、心臓が衰えていたのだ。うなり声と側面の熱気は一所懸命頑張るあがきであったのだ。年寄りの僕らと同じように諸器官の衰えや不具

合が生じて苦しんでいたことになる。そう思うと、酷使したことが申し訳なく、悲しいほどに感謝の念が強まるってものだ。

それにしても、随分と頑張ったものだ。いや、頑張らせたものだ。そして、ひよっとして、業者に引き取られて行く時のうなり声は、泣いていたのかも知れない。

ますます切ない。

一方、新しい冷蔵庫は、色はシルバーの百八十センチを超える背高で、肩幅はこれまでの東芝君と同じだから、かなりスリムだ。東芝二世君と呼んでいる。

二世君。

外観は地味だが、胸の内を開けてもらったところ、まばゆいほど明るい！LEDだ。そして背高分広くて包容量がある上、冷却パワ―も凄い。そして、うなりの無い静かな心音で、体温も高くなく、省エネときている。

この頼もしさに妻はうっとりしている。手の入れ方にも心が籠っているような気がする。一世君に対する罪滅ぼしもあるのかも知れない。

それにしても、何でも程度問題で、ほどほどにすべきだった。

.....

あ、なお今夏一段の「断熱と節電のダブル対策」を考えている。カーテンを遮熱でなく一層遮断力のありそうな断熱タイプに変えることで、部屋内と外気のシャットアウトを強化し、通年の室温対策に役立たないか？

また、それを閉めるタイミングをベランダに陽が回って来て暑熱が窓から入ってくる前とする。冬はその逆となるのだろう。

特にこれからの夏は創意工夫も必要だ・・・つまり変化する自然への対応力が今後ますます試されるってことになる。

やれやれ（了）